二三男くんの未来日記

台東区

だれもが誇りを持って安心して暮らすことができるまちへ

にぎわいと活力にあふれ、地方とともに躍進

二三男くんが70年の時を経て訪れた上野は、道路の真ん中を走っていた都電がなくなった分、ちょっとさびしさを感じましたが、相変わらずどこもたくさんの人が行き交い、今も昔も変わらぬ元気のある繁華街です。

「僕の子どもの頃から浅草や上野は、みんなが笑顔になれる街だった。戦後もずっと発展してきた台東区。これからどんな将来を展望しているのか知りたい」

二三男くんは、さっそく台東区役所にやってきました。そして、区政情報コーナーで『台東区人口ビジョン・総合戦略』を手に取りました。

人口は増加に転じる

まずは、「人口ビジョン」から読み始めました。

台東区の人口は戦後、増加を続け、1960（昭和35）年には最多となる約32万人に達しましたが、以降、高度経済成長期からバブル経済期を経て一貫して減少傾向で推移を続け、1995（平成7）年にはその半数程度となる約15万人にまで減少しました。1995（平成7）年から2000（平成12）年にかけては人口の都心回帰を受けて、約40年ぶりに増加に転じました。

それ以降は一貫して増加傾向で推移を続けており、2015（平成27）年4月現在の住民基本台帳によると、台東区の総人口は19万363人となっています。

台東区の純移動率と出生傾向を反映した区独自の将来推計人口を見てみると、2035（平成57）年に21・3万人とピークを迎えて、以降は2060（平成72）年まで逓減していく見込みです。

人口の将来展望

人口の将来展望では、就職などを機とした転入を背景として20歳代での転入超過が見られる一方、30～40代の転入超過数は減少していることから、30～40歳代の区民を区内に留めるような取り組みが必要だと指摘。区内の昼間人口の減少が長期的に続いているため、若年層を中心とした雇用の場の確保と定住促進の両方に取り組む必要があるとしています。

また、転出入の状況を見ると、30～40歳代の転出数と0～4歳の転出超過数が増えていることから、全ての親が安心して希望どおりに妊娠、出産、子育てができる地域社会を実現することが重要だとしています。

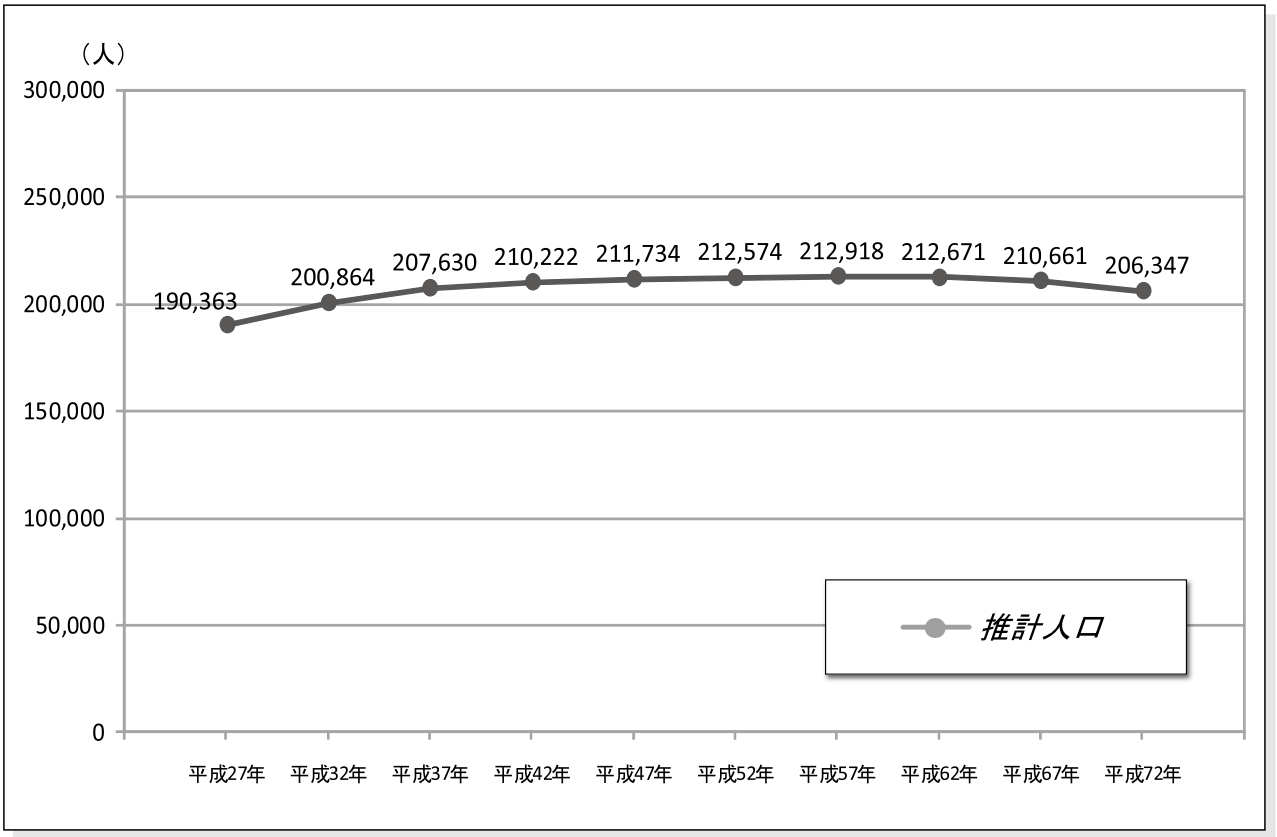
このほか、交通の要衝としての立地環境等を活かし、選ばれ、住み続けられるまちとなるように、台東区の魅力を高め、発信することが求められると指摘しています。また、地域社会を構成する多様な人々が支え合い、それぞれが安心して住み続けられ、自分らしく暮らせる地域を実現することが重要だとしています。

地方とともに躍進する台東区の実現

続いて、二三男くんは「総合戦略」を読みました。

「台東区総合戦略」は、将来にわ

■推計人口の総数の見通し（平成28年3月台東区人口ビジョン・総合戦略策定時の推計値）



たって区民だれもが誇りを持って安心して暮らすことができ、一層のにぎわいと活力にあふれ、地方とともに躍進する台東区の実現を目指しています。その上で、基本目標として、①安心して子供を生み育てられる環境の整備②住み続けられる暮らしやすい地域環境の整備③地域の活力を支える地域産業の振興④国際文化観光・交流都市の形成の四つを掲げています。

「安心して子供を生み育てられる環境の整備」では、全国的に人口減少、少子高齢化が進む中で、出生率の上昇傾向や年少人口の増加傾向を今後も維持していくためには、若い世代を始め、全ての親が安心して希望どおりに出産・子育てをすることができるよう、妊娠からの切れ目のない支援が必要だとしています。

「住み続けられる暮らしやすい地域環境の整備」では、定住性向上のため、まちづくり、防災・防犯などの観点から、区民だれもが生涯にわたって住み続けることができる地域環境の整備が求められていると指摘しています。また、高齢化率の上昇が見込まれる中で、高齢者になっても住み慣れた地域で住み続けられるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けて、健康づくりや社会参加の促進などに取り組んでいく必要があるとしました。

「地域の活力を支える地域産業の振興」では、将来にわたり活力ある地域社会の維持、一層の発展を図っていくためには、区内産業の活性化をこれまで以上に支援していく必要があるとしています。施策の方向性については、区内産業の持続的な成長と発展、地域の個性を生かした産業の活性化を掲げています。

「国際文化観光・交流都市の形成」では、国内外の都市・地域・人との交流を通じて幅広い地域の経済的、文化的な発展に貢献する交流都市としての役割も期待されるとし、区民から愛され、多くの来街者を惹きつけるまちの魅力づくりが必要だと指摘しています。

「いっとき保育」でリフレッシュ

二三男くんは、「総合戦略」に基づいた具体的な施策を見てみることにしました。

お母さんのリフレッシュでも利用できる「いっとき保育」

一つ目は、「多様な保育サービスの展開」です。「いっとき保育」は、時間単位で子供を預かってくれるサービスです。対象は1歳から6歳（就学前）までの子供で、保育園ではなく「いっとき保育」の子供専用の施設で過ごします。

利用料金は1時間500円。利用したい日の前月の1日から予約を開始します。大変人気のあるサービスで、これまでは区内1カ所でしたが、2018（平成30）年12月には2カ所目がオープンする予定です。

やむを得ない理由で子供を一時的に預かってくれる「一時保育」とは異なり、「いっとき保育」は預ける理由を問わないのが特徴です。例えば、昼間は子供と2人きりで過ごすお母さんがたまには自分だけの時間がほしい、または子供から離れて気分転換したい、リフレッシュしたいという様々なニーズに応える施策です。

住民主体の「通いの場」づくり

二つ目は、「介護予防の推進」です。台東区は、住民主体の「通いの場」づくりを進めています。「通いの場」とは、高齢の人でも歩いて通える場所にあり、定期的に近所など地域の人たちが集まって自主的に運営するグループです。

これまでの行政主導の介護予防事業では、参加する高齢者が限られていました。区はより多くの高齢者が介護予防に主体的に継続して取り組んでもらうには、新たなアプローチが必要だと考えました。そこで、高齢者の主体的な活動を動機付けるきっかけづくりを行政が行い、高齢者が主体となる地域づくりを展開していくことにしました。

2016（平成28）年度に国が実施する「地域づくりによる介護予防支援事業」のモデル市町村として都の支援を受け、「通いの場」づくりに取り組み始めました。初年度は浅草橋地区をモデル地区として、区民向け説明会を開催し、2グループが立ち上がりました。翌2017（平成29）年度には同様の説明会を開催し、区内全域で取り組んだ結果、新たに5グループが立ち上がりました。

「通いの場」は、週に1回以上、地域の人たちが集まって自主的に運営し、体操やお茶会など、みんなでしたいと思うことを楽しみながら自由に行います。年齢や身体の状態に関係なく誰もが参加でき、仲間との交流を深め、さまざまな楽しみを見つけることができます。

「通いの場」づくりに向けた区民説明会

いつまでもいきいきと元気でいるためには、「外出する」「人と話す」「体を鍛える」の三つが大切です。ご近所同士、仲間同士、声を掛け合うことで、日ごろは自宅に閉じこもりがちな高齢者も、外に出かけるきっかけになります。

「通いの場」に通う人からは、「通いの場に来ると、よくしゃべってよく笑うので楽しいです」「通い始める前よりも気持ちが明るくなりました」「週1回の体操のおかげで、杖を忘れるくらい足の力がつきました」といった声が出ています。区では、こうしたグループが区内全域に広がるよう、通いの場でできる筋力向上に効果がある体操の紹介や体力測定等、立ち上げに向けた支援を行なっています。

江戸由来の伝統工芸を振興

三つ目は、「江戸下町伝統工芸の振興」です。

江戸時代、台東区は町人が住む「下

町」で、浅草に芝居小屋や吉原があったため江戸の一大盛り場として栄えていました。そのため、歌舞伎用道具や町人生活に密着した品々の需要が高い場所でした。現在でも、日本有数の伝統工芸産業集積地です。

台東区は、匠の技による伝統工芸の普及・発展を図り、台東区の伝統工芸産業の振興と新たな市場・販路の開拓や後継者育成に努力しています。

浅草にある江戸下町伝統工芸館では、江戸・東京という都市のもと台東区で育まれ受け継がれてきた職人たちの技術によって作られた伝統工芸品を紹介しています。また、週末には職人による製作実演を行うなど、様々な催しも行っています（リニューアル工事のため２０１９〈平成31〉年３月下旬まで閉館）。

伝統工芸職人による製作実演の様子

重要文化財の保存活用

四つ目は「旧東京音楽学校奏楽堂の保全」です。

旧東京音楽学校奏楽堂は、東京音楽学校（現・東京藝術大学音楽学部）の校舎として１８９０（明治23）年に建造されました。建物の老朽化により校舎を都外へ移設する構想が持ち上がりましたが、１９８３（昭和58）年に台東区が東京藝術大学から譲り受けました。そして、１９８７（昭和62）年に現在の地（上野公園内）へ校舎を移築・復原し、「旧東京音楽学校奏楽堂」として公開を開始しました。さらに、翌１９８８（昭和63）年には日本最古の洋式音楽ホールを擁する施設として重要文化財の指定を受けています。

旧奏楽堂の文化財的価値を保存し、「生きた文化財」として活用するための「保存活用工事」を２０１３（平成25）年４月から行い、耐震補強や保存修理等を終えて、２０１８（平成30）年11月にリニューアルオープンを迎えます。リニューアルオープンに合わせて、複数の記念演奏会の開催が予定されています。

㊤今年11月にリニューアルオープンする旧東京音楽学校奏楽堂㊦日本最古の洋式音楽ホール

活力の源は区民

台東区の活力の源は区民です。区民が活気あるまちをつくり、地域の産業を支え、「歴史と文化のまち」台東区を将来に継承していく主人公です。

二三男くんは「お母さんやお父さんが子育てで疲れた心身をリフレッシュする手助けをしたり、高齢者が元気になれるきっかけづくりをして、区民主役のまちづくりを進めている。一方、江戸時代から受け継いだ伝統工芸の魅力を発信する取り組みや、『生きた文化財』を保存・活用し、後世へ継承する努力もしている。区民が愛着と誇りの持てるまちを目指しているのがよく分かった」と満足そうに話しました。

たくさん勉強して満足げな二三男くんですが、お腹がぐーっと鳴ってしまいました。「浅草で美味しいものでも食べるかな」と小走りに向かいました。

取材協力／台東区